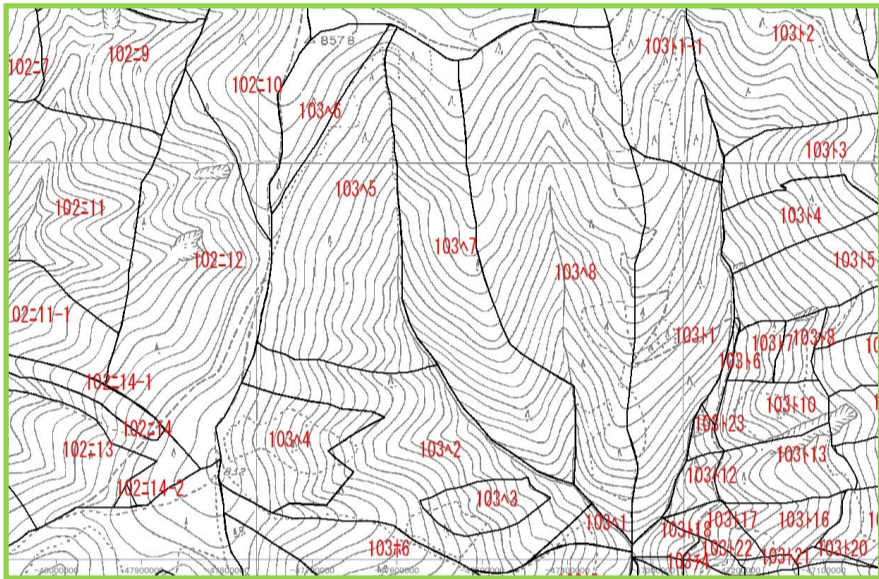


これからの森林管理(GIS)

【山林という資産】

山林は植栽から数回に渡り投資(保育・造林等)を行い、その後皆伐など更新期に1度で回収する経営形態を続けてまいりましたが、乱高下する為替の影響による木材価格の下落や建築工法の変更など、安定した森林経営を実現することは困難な状態となっています。また、林業は農業と違い、植え付けから収穫(林業では植栽から皆伐)までの期間が50年以上と長期間に及び、容易に収支管理することは困難で、近年財産としての位置づけが低く、放置される山林が増加傾向にあると思われます。



【山林管理の現状】

山林は今来、有識者による記憶での継承や林班図等により、位置・広さ・境界・施業履歴などについて管理されてきました。また長らく放置された山林においては「世代が変わると位置さえもわからない」状態に陥り、相続等が行えない山林も見受けられます。

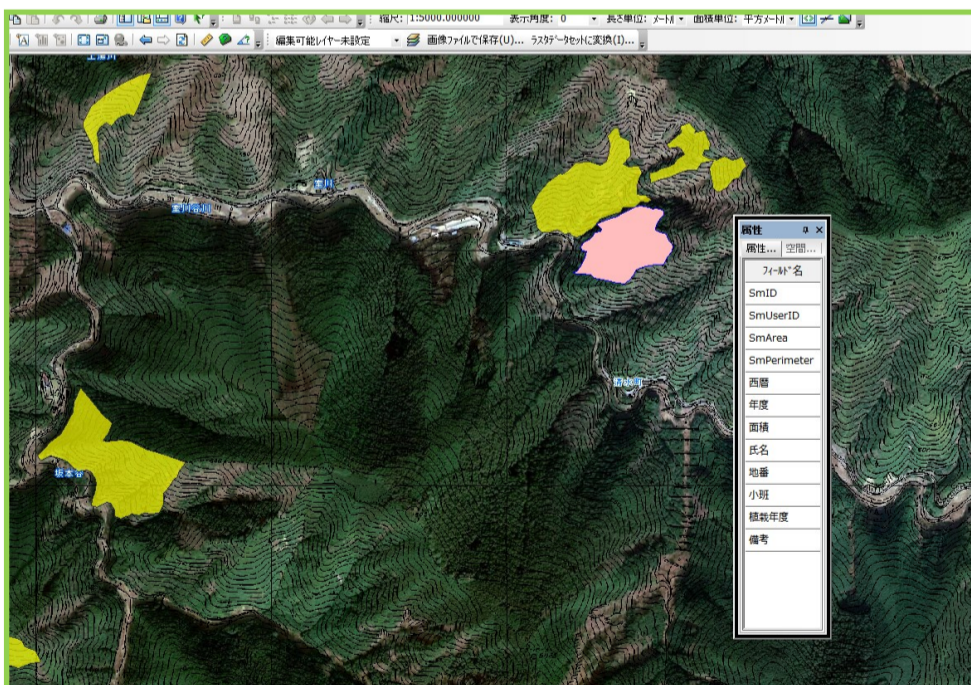
【このような状態では・・・】

このような状態であるからといって山林を放置し続けると山林という資産が持山(じさん)となってしまいます。森林は、植栽→約50年に及ぶ保育期間→更新、これら全てを一元管理し適切に経営していくことが重要であると考えます。

※わたしたちは放置し荒れ果てた山林や運営を放棄した山林を持山(造語)と捉えています。

【GIS森林管理の特徴】

位置・広さ・境界・施業履歴など、容易に視認することができるシステムで、航空写真上にこれら全ての情報を記録することができ、且つ半永久的にデータ保存することも可能な森林管理システムです。



【森林GISのイメージ図】

【GISの利点】

GIS森林管理システムでは、誰が何処に、いつ植栽したのか？いつ保育施業(間伐等)したのか？いつ更新するのか？などの情報を記録できるため、植栽から更新まで長期に及ぶ施業計画を一元管理することが可能です。※山林経営環境の改善に役立ちます。

【GISの拡張機能】

登録した位置情報をグーグルアースと連携させることも可能で、平面や3D画像もお持ちのスマートフォンやPCからいつでも確認することができます。

【GISによる資産管理】

森林GISにより、長期に及ぶ施業計画や視認できる位置情報等を半永久的にデータ管理することで、山林資産を安心して後生に引き継ぐことができると考えます。※所有者移転時も安心。

